



夢に向かって一步一步

校長 石原 加代子

紫陽花の美しさが際立っていた梅雨の季節は終わり、異例の梅雨明けとなりました。連日の猛暑のため、学習予定を変更する場合があります。熱中症予防と感染拡大防止をしながら安全な教育活動に努めています。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本校の卒業生である中村俊輔選手が5月31日に深谷小に帰ってきてくださり、創立50周年記念講演を開催しました。中村俊輔選手のお父様である学援隊の中村様のお力添えでご本人に快諾していただき、関係各所の細やかな調整によって実現したものです。

子どもたちは一人ひとりの夢を書いた団扇を振って歓迎と感謝の気持ちを表し、大興奮でした。団扇は、6年生がなかよし班の下級生の分をつくったものです。児童が司会をして進め、中村選手は子どもたちの質問に優しい口調で答えたりパスやリフティング交流をしてくださったりしました。小学生の頃、うまくなりた一心で校庭の投てき板の三つの的に毎日ボールを蹴っていたそうです。「絶対にこういうふうになりたいという気持ち」・「大きな目標だけでなく身近な目標も立てること」の大切さを熱く語ってくださいました。この講演を通して、夢をもち目標に向かって粘り強く取り組もうとする姿勢を育みたいと考えていました。常に向上心をもって努力を積み重ねてきた中村選手の言葉には重みがあり、子どもたちの心に響いたにちがいありません。

講演後、校庭ではサッカーを楽しむ子どもたちや三つの的にボールを蹴っている姿をよく見かけます。夢に向かって一步一步目標を達成するように頑張ろうという意欲を高めるとともに、中村選手の後輩である『深谷っ子』としての誇りと自信にもつながったことでしょうか。いつか団扇に書いた夢を叶える子がいるのではないのでしょうか。忘れられない素敵なひと時をつくってくださったこと、ご尽力くださった皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、学校生活の節目には、子どもたちに「なりたい自分」を思い浮かべ、そのために何をどうするのか、考えて行動するように話しています。学期末には、「なりたい自分にどこまで近づいたのか」「何ができ、何がまだできていないのか」を振り返り、次の目標を立てるように促しています。「目標をノートに書いて意識し、目標が叶うと次の目標を立てた」という中村選手の話は、教育活動にも通じるものがあると感じました。子どもたちが目指す自分に一步一步近づけるように、私たち教職員は温かい支援に努め、教育活動に取り組んでまいります。

創立50周年を記念し、中村俊輔選手がサイン入りユニフォームを寄贈してくださいました。目にするたび、先輩のように自分も頑張ろうという気持ちを思い出すとともに、未来の『深谷っ子』に語り継がれることでしょう。

